

『口腔インプラント治療指針2012』 刊行

歯科医師がインプラント治療を行う場合の1つの基本的な指標が明らかに

—日本口腔インプラント学会

相次ぐインプラントトラブルを問題視した国民生活センターから、歯科関連学会にインプラント治療後のトラブルに関する要望書が提出されていました。これを受け、日本口腔インプラント学会は『口腔インプラント治療指針2012』を刊行しました。下記は抜粋です。

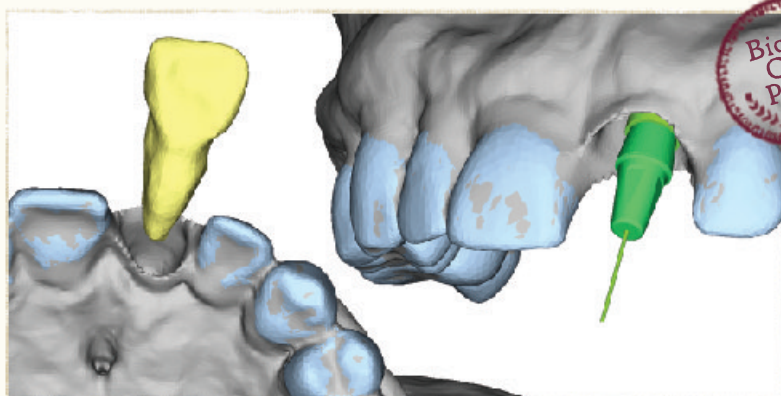
国民もマスコミも口腔インプラント治療が素晴らしい治療であることは認識しているものの、医療従事者側の治療技術や知識の不足、医療モラルの不足、患者へのインフォームドコンセントの不足が指摘され、その対応と改善が求められている
(—編集の序)

唇頬舌断面での画像やこれらが連続している画像、また三次元的解析が必要な場合CT撮影は必須
(—P5)
安全・安心なインプラント治療においてはCT検査が必要
(—P10)

解析コンピュータソフトは、診断治療計画の立案、手術のシミュレーション、サージカルガイドプレートの製作、インフォームドコンセントに有効
(—P12)

インフォームドコンセントは患者の主訴、口腔内の状態、全身的な状態などを把握して総合的に判断し、治療に関してのすべての情報を整理し、わかりやすく説明、患者に理解、納得、同意してもらうことで成立する
(—P25)

指針にもあるように、CT撮影とシミュレーションは最早必須だと言えます。高品質なシミュレーションソフトを使用し綿密な治療計画を立て、患者さんに説明を行うことが、安全なインプラント治療の要となるのではないのでしょうか。



3D上で抜歯窩の確認が可能

シミュレーションソフトBioNa[®]では、抜歯前にCT撮影されていても、3D上で歯牙を動かすことができます。抜歯後の骨の状況を確認したり、歯牙移動のシミュレーションも行えます。